２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①様々な言葉を知り、活用する力 ②文の構成を理解する力 ③応用問題に対応するために必要な基礎的・基本的な力 ④情報を整理する力	⑤適切な言葉を使用し、伝えたい内容を明確にし、適切に表現する力 ⑥見通しをもち筋道を立てて考察する力 ⑦身についた知識や技能から応用できるものを適切に選び、考えを導き出す力	⑧あきらめず、最後までやり遂げる力 ⑨他者との違いを認め、気付いたことを自らに生かす力 ⑩協働して活動する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ②	①ひらがな、カタカナ、漢字や「は・を・へ」などの助詞の正しい使い方を意識させ、書く力を身に付けさせる。 ②順序を整理し、簡単な構成を考えて、文章を書く能力を身に付けるために、日記などを書く活動に取り組ませる。	
算数	③ ⑥	③加法、減法、乗法の理解を深め、計算力が向上するように反復練習をさせる。 ⑥具体物を用いた活動を多く取り入れ、アレイ図や数を図に表すなどをして、数や数量関係について理解できるようにさせる。	
生活	④	④分かったことや気付いたことを、伝えたいことや伝え方に応じて整理できるよう指導を行う。	
音楽	⑩	⑩ペア学習で教え合い、高め合う機会を設ける。	
図画工作	⑦ ⑨	⑦多様な表現方法が取れるように、多様な材料と出会わせる。 ⑨気付きやイメージなどを基に、児童が発想を共有したり、話し合ったりするような活動をする。	
体育	⑧	⑧授業において３０分以上の運動時間を確保する。単元に応じ、楽しさを味わうことができる場を設定する。	
英語活動	⑤	⑤　身近にある英単語を使った歌やアクティビティを行う。また、フォニックスを取り入れ、正しい発音の仕方を身に付けさせる。	
特別の教科　道徳	⑨	⑨役割演技を取り入れ、価値について自分のこととして考えたり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えをもてるようにする。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①様々な言葉を知り、活用する力 ②文の構成を理解する力 ③応用問題に対応するために必要な基礎的・基本的な力 ④情報を整理する力	⑤適切な言葉を使用し、伝えたい内容を明確にし、適切に表現する力 ⑥見通しをもち筋道を立てて考察する力 ⑦身についた知識や技能から応用できるものを適切に選び、考えを導き出す力	⑧あきらめず、最後までやり遂げる力 ⑨他者との違いを認め、気付いたことを自らに生かす力 ⑩協働して活動する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ② ⑤	①読書や音読を通して、文章に触れる機会を増やす。 ②文の構成を理解するために、主語と述語の関係や段落の役割を意識できるように文章に印を付けさせる。 ⑤段落を意識しながら書く力を伸ばすワークシートを活用し、書く力の向上を図る。	
社会	③ ⑩	③知識の定着を図るために、ワークシート等を活用させる。 ⑩ペア学習、グループ活動を取り入れ、話し合いの学習を充実させる。	
算数	③ ⑦ ⑧	③計算ドリルやプリントなどを繰り返し行わせる。 ⑦自力解決の際、自分の考えを図や言葉でまとめさせる。 ⑧スモールステップで達成感を与え、解法の多様性を認め試行錯誤を価値付ける。	
理科	④ ⑥	④観察プリントを活用し、どのように変化したかを考えさせる。 ⑥課題を見つけるところからまとめまでの見通しをもたせ、予想を考えさせる。ノートに記録し、全体で共有する。	
音楽	⑩	⑩曲想に合った表現を工夫するために、ペアやグループ活動を取り入れ、意欲的な取組につなげる。	
図画工作	⑤ ⑨	⑤適切に用具や材料を見つけ、自分の思いを表現させる。 ⑨活動中の意見交流から、工夫点やそれぞれのよさを見つけさせ、自分の活動に生かせるようにする。	
体育	③ ⑥ ⑩	③運動時間３０分以上確保することで、技能の習得や体力の向上を図る。 ⑥毎時間における課題を明確にし、学習カードを用いて見通しをもち筋道を立てて考察する力を身に付けさせる。 ⑩話し合う、教え合うなど協働的に学ぶ場面を増やす。	
外国語活動	① ⑦	①身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりし、外国語に親しめるようにする。 ⑦自分の考えや気持ちを伝え合う活動を取り入れ、意欲的に活動に取り組めるようにする。	
特別の教科　道徳	⑨	⑨役割演技やグループでの話合い活動を取り入れ、価値について主体的に考えられようにする。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①様々な言葉を知り、活用する力 ②文の構成を理解する力 ③応用問題に対応するために必要な基礎的・基本的な力 ④情報を整理する力	⑤適切な言葉を使用し、伝えたい内容を明確にし、適切に表現する力 ⑥見通しをもち筋道を立てて考察する力 ⑦身についた知識や技能から応用できるものを適切に選び、考えを導き出す力	⑧あきらめず、最後までやり遂げる力 ⑨他者との違いを認め、気付いたことを自らに生かす力 ⑩協働して活動する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ② ⑤	①様々な言葉を知り、活用する力を身に付けさせるために、読書活動を推奨し、語彙を増やす。 ②段落相互の関係や接続語、文末表現、登場人物の言動、情景に着目しながら文章の要旨をとらえさせ、読解力を育成する。 ⑤文章の要約をさせたり、自分の考えを述べたりする活動を多く設け、表現力を育成する。	
社会	④ ⑦	④大型モニタやＩＣＴ端末を活用して資料を提示し、視点を与えて読み取りをさせる。 ⑦資料を読み取り、その意味や背景について自分の考えをもち、適切に表現するために、話合い活動等の深め合う活動を取り入れる。	
算数	③ ⑦ ⑧	③計算力や作図の技能を上げるために、基本的な計算問題を繰り返し行う。 ⑦文章から必要な情報を読み取り、立式する力を身に付けさせるために、繰り返し問題に取り組ませる。 ⑧スモールステップで達成感を与え、解法の多様性を認め試行錯誤を価値付ける。	
理科	③ ⑥	③ＩＣＴ教材を活用して、自然事象や現象に対する知識を身に付けさせる。 ⑥予想や実験結果を考察し、自分の言葉でまとめさせる。	
音楽	⑩	⑩曲想に合った表現を工夫するために、ペアやグループ活動を取り入れ、意欲的な取組につなげる。	
図画工作	⑦ ⑨	⑦豊かな表現ができるよう、自ら多様な技法を選ばせる。 ⑨より良い作品を鑑賞したり、友人と話し合ったりし、その表現のよさや美しさ、おもしろさに気付かせる。	
家庭	③ ⑦	③大型モニタで調理の仕方や縫い方の手順を示し、個別に支援しながら確実な技能の定着を図る。 ⑦よりよい工夫を考えさせたり、家庭でも実践させたりする。	
体育	⑦ ⑩	⑦場の設定を工夫し、自分に合う練習が行えるようにする。 ⑩課題を明確にして、個人やチームで考える時間を設ける。	
外国語科	⑤ ⑩	⑤ＩＣＴ機器を活用し、やりとりや発表等を録画し、見直すことができるようにする。 ⑩ペアや小グループなどを活用し、お互いの成果物などを見て、自分の活動に生かせるようにする。	
特別の教科　道徳	⑨	⑨ペア、小グループなどの話合い活動を取り入れ、友達の考えを聞きながら、自分の考えを深められるようにする。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
一部教科担任制の実施	○３年生は５教科、４年生は６教科、５・６年生は８教科で教科担任制を実施し、教員はその授業に特化して、授業を実施している。
ＩＣＴ端末を効果的に用いた授業	○ＩＣＴ端末を児童同士の意見・考えの交流の場で活用する。 ○課題が早く終わった児童の復習及び発展問題に取り組む際にドリルアプリを活用する。 ○情報を発表する際のプレゼンテーションツールとしての活用を実施する。
外部機関との連携、地域の教育力の積極的導入	○総合的な学習の時間、防災教育、安全教育、福祉教育、道徳教育、外部機関や地域の教育力の積極的な活用を推進する。（ゲストティーチャー） ○学校運営協議会、ＰＴＡ、教職員と情報を共有し、協力し合い、地域の教育力の向上を図る。
幼保小連携の充実	○来年度入学の幼児を招き、教職員が小学校での生活を説明したり、生活科の学習で作成したおもちゃを一緒に使って遊んだり、交流を実施する。
小中連携の充実	○上尾市小中一貫教育基本方針に基づき、東中学校区の３校で生徒指導や総合的な学習の時間の授業について情報交換を行ったり共通理解を図ったりする。また、中学校の生徒との交流や、中学校の先生による出前授業を実施する。
家庭教育との連携	
家庭学習の充実	○家庭と連携し、家庭学習の習慣を児童に身に付けさせる。 ○自習アプリの活用の仕方をホームページ等で紹介し、保護者や児童に家庭でも活用いただけるよう周知する。
ホームページの充実による地域住民への情報発信	○学校からのたよりや活動の様子を記事にすることで、本校の教育活動を保護者のみならず地域住民にも発信し、より親しみをもって協力いただけるようにする。
ＩＣＴ端末使用のルールやマナーの家庭との共有	○「学習者用端末利用のルール」を作成し、周知するとともに、家庭でのＩＣＴ端末使用に対するルールも提示し、家庭との共通理解を進めている。学校だよりに、学期に１回、情報モラルについての記事を形成する。

地域連携による学校環境整備	○遊具のペンキ塗り直しや除草作業等、学校環境の改善を定期的に実施していただく。その活動をホームページで紹介したり、児童に伝えたりすることで、連携を図る。
学習ボランティアの活用	○家庭科や生活科、総合的な学習の時間の学習で、保護者や地域の方からボランティアを募集し、見守ってもらいながら授業を実施する。その体験を通して保護者や地域の型にも学校の教育活動に加わってもらうことで、さらなる連携を図る。また、読書ボランティアによる読み聞かせを実施し、本に対する興味関心を高め、読書量を増やす機会としていく。